

大豆栽培における雑草の防除対策について

－雑草の種類に合わせた除草剤の選択で労力負担を図りましょう－

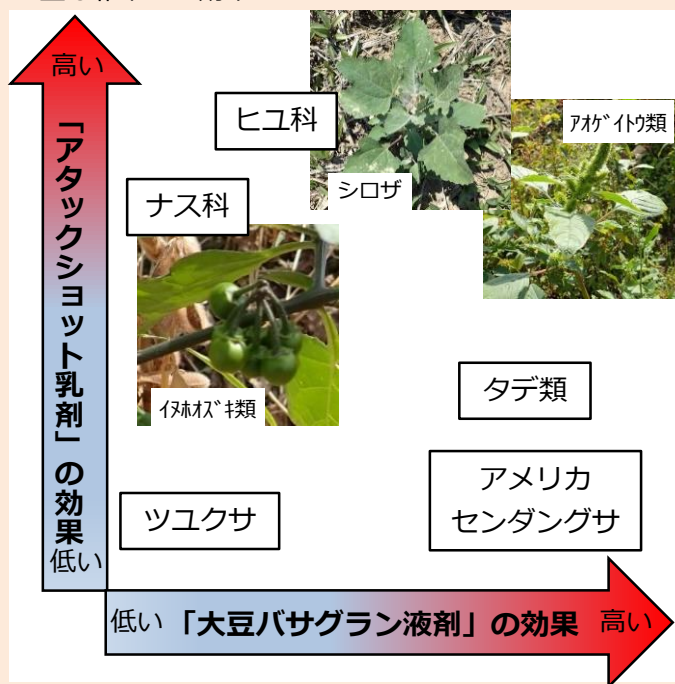
農林総合研究所

県内の大豆圃場で発生している雑草は「シロザ」や「タデ類」が多く、「イヌホオズキ類」や「ツユクサ」が増加傾向にあります。「アタックショット乳剤」は「大豆バサグラン液剤」と同様に全面散布ができる一年生広葉雑草対象の除草剤で、「大豆バサグラン液剤」と組み合わせて使用することで雑草管理の負担軽減が期待できます。

「アタックショット乳剤」との効果の違いと大豆への薬害

- ◆ 「大豆バサグラン液剤」は「シロザ」などのヒユ科雑草や「イヌホオズキ類」などのナス科雑草などの効果は劣るが、「アタックショット乳剤」は効果が高い除草剤です。
- ◆ 「アタックショット乳剤」がかかった葉は、褐変、白斑、縮葉が現れ、ひどい時には一部落葉しますが、その後に出てくる新葉は正常に生育し、収量への影響はありません。

「アタックショット乳剤」と「大豆バサグラン液剤」の主な雑草への効果のちがい



散布翌日の大豆の葉



薬剤がかかった葉は薬害が生じますが、次に出てくる新葉は正常で収量には影響しません。



「アタックショット乳剤」、「大豆バサグラン液剤」はそれぞれ雑草の種類によって得意・不得意があるので、圃場の雑草の発生状況を見て、薬剤を選択しましょう。

技術の活用・注意点

- ◆ 雑草が大きくなると効果が落ちるので、散布時期を逸しないようにしましょう。
- ◆ 他の茎葉処理除草剤（イネ科雑草対象剤を含む）との混用は、減収が認められるので避けましょう。
- ◆ 最新の農薬登録内容を確認して使用しましょう。